

郷土摂津

第77号

平成16年9月1日

いにしえ通信

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
〒566-8555 摂津市三島一丁目1-1

(06)6383-1111 (072)638-0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>摂津市の
石造文化財

力士墓道標

(三島2-10)(浜町11-20)

第6回

力士墓道標(三島2丁目) 大岩藤八という力士の墓ですが、道標を刻んでいます。さらに紀年銘文を入れており、よい資料となっています。石碑は自然石を用いていて、正面には、力士としての名前が入れられており、その左右下部に地名を記し、裏面には、力士の戒名銘と紀年銘を記しています。



銘文
右 しばらき
左 大岩藤八 墓
う乃べ
いばらき江



安政五年戊午
九月十六日
(裏) 心覺勇悦信士
世話人 門定中

力士墓道標(浜町) 力士墓にともなう道標です。石碑は自然石を用いています。正面中央の部分は一段彫り下げ削平したところへ銘文を彫りこんでいます。正面に「大碇浅右衛門」と力士名を入れており、その左右に道標の地名を刻んでいます。裏面には、戒名や紀年銘の記入はありません。全高88cm、幅52cm、厚さ35cmと、比較的大きな碑といえます。



銘文
右 すいた
左 大碇浅右衛門
とりかい 世話人

おおさか ふみんネット

生涯学習広域講座のご案内

三島フロック

テーマ 「我が町再発見」
期間 平成16年10月26日(火)～
12月2日(木)の全5回
定員 100名(各市町20名)・申込者多数の場合は抽選
対象者 原則として全5回参加可能な方
参加費 保険料300円(交通費は自己負担)

お申込方法・お申込先 往復ハガキに、住所・氏名(フリガナ)・年齢・電話番号・返信用宛先を明記の上、平成16年10月8日(金)までに、「公開講座係」へお申込下さい。(必着、一人一枚に限る)

〒566-8555 摂津市三島1丁目1-1

摂津市教育委員会 生涯学習課 (06-6383-1111)

10/26(火) 14:00～15:30	吹田市「行基伝承と北摂地方」 会場・・・吹田市民会館大集会室
11/11(木) 14:00～15:30	島本町「島本町の隠れた仏像に光をあてる」 会場・・・島本町ふれあいセンター・キャホール
11/18(木) 14:00～16:00	高槻市「今城塚古墳の埴輪群像」 会場・・・阿武野コミュニティセンター
11/25(木) 14:00～16:00	摂津市「山田川物語 過去と未来をつなぐ橋」 会場・・・摂津市総合福祉会館第1会議室
12/2(火) 14:00～15:30	茨木市「茨木城と片桐旦元」 会場・・・生涯学習センター(仮称)

となりの街へ出かけませんか? おおさかふみんネットとは、大阪府と府内市町村が実施する生涯学習連携事業のことをいいます。あなたもこの機会に「となりの街へ出かけませんか?」

石碑・顕彰札の紹介

弥栄の樟

天保14年(1846年)の嶋下郡味舌郷の図面には金剛院持と見られます。当時この付近も金剛院(千里丘3丁目)の一部であった可能性があります。かつてはこの地に藤の木八幡神社(中内八幡宮)の社があり、中内八幡宮の歌をうたいながら参詣する人も多かったようです。

この八幡宮は明治45年4月、須佐之男命神社に合祖されましたが、その当時からひときわ目立ったのがこの樟でした。聖武天皇の天平年間(729~748年)植樹という伝承がありますが、昭和初めに味舌村では「弥栄の樟」と命名し、命名式には芸人を呼び寄せて披露し、この樹を厚く保護するようになりました。

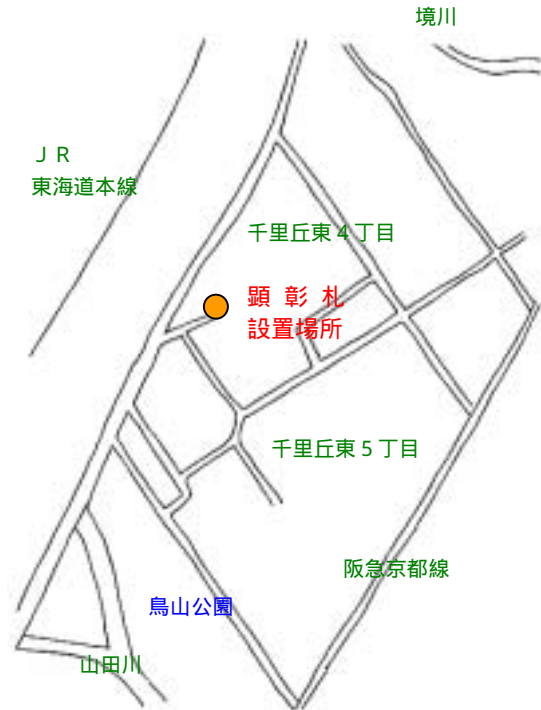
この樟は平成元年4月大阪みどりの百選選定委員会において「大阪みどりの百選」の一つに選ばれました。

(平成元年9月5日現在)

摂津市域の歴史をたずねて

【所在地】摂津市千里丘東5丁目3

【設置年度】平成6年度



第40回 埋もれた摂津市の歴史

淀川から土器が出土

昭和49年の淀川改修工事に際して、鳥飼西地区の河床が浚渫され、多量の遺物が採集されました。本流中の土砂とともに採集されたもので包含層の有無や出土状況は不明です。検出された遺物は縄文時代から近代のものを含み、土器類がほとんどです

が、時代が下るにしたがい、銭貨、煙管、刀剣など様々な物が出土しています。遺物は発掘調査で出土する場合と今回のように土木工事中に採集される場合があります。前者は柱穴、溝の中からの出土で当時の位置(原位置)を保っています。それに対して、淀川の河床から出土した遺物は当時の位置を保っていません。

おそらく上流から流されてきたものでしょう。しかし、流されてくる過程でできる土器の表面のローリングという摩滅度から近くに集落があったのかなど、一定の判断が可能となります。この時の浚渫作業では縄文時代から近代までの土器が採集されていますが、その中で弥生時代の土器のローリングが少なく付近一帯に堤防上の集落などがあった可能性を残します。(つづく)



弥生土器壺頸部